

第2表（中）

学校名 清瀬市立清瀬第二中学校（知的障害学級）

2 指導の重点

（1） 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、各教科等を合わせた指導の重点

ア 各教科

○個別指導計画を基に、個々の能力や発達検査の結果をもとに障害の状態に応じたスモールステップによる指導等の工夫を行う。コミュニケーションの手段としての ICT 機器一層の活用を図ると共に、物を操作したり、ロールプレイをしたりするなどして、生徒が体験的に学ぶ機会を多く設定し、知識や思考等と経験が結び付くような指導を実践する。

イ 道徳科

○道徳科を要として学校の教育活動全体を通して、人間尊重の精神を培い、互いに認め支え合う存在であることを理解させる。日常生活の場面を想起しやすい題材を扱い、一人一人が自己を見つめて、自己の生き方や人との関わり等について主体的に考え、議論する学習を展開する。

ウ 総合的な学習の時間

○体験的な学習や問題解決的な学習を通して、将来の社会参加に向け自らの生活を振り返り、課題を見付け、主体的に問題を解決する資質や能力を育成する。

○地域理解に関する活動や地域貢献に関する活動などを取り入れた、「清瀬に関する地域学習」を通して地域を愛する心情や地域に貢献する心情を育てる。

エ 特別活動

○交流及び共同学習の機会を積極的に設定し、相互理解を進めることで、社会性の育成に努める。修学旅行や移動教室などの集団活動の体験を通して、自分の力を十分に発揮し最後までやり抜く力、周囲の協力を得る力、自立的な生活をしていくための力を養う。

オ 自立活動

○一人一人の実態を丁寧に把握し、教育活動全体を通して、自分の意思や感情などを相互に伝え合うソーシャルスキルの指導を行う。

カ 各教科等を合わせた指導

○日常生活の指導では、挨拶、身辺自立が確実に定着できるよう指導する。教育活動全体を通じて、報告、連絡、相談について指導し、主体的に活動する力を育成する。

（2）生活指導の重点

○基本的生活習慣の確立を図り、自立に向けた生活ができる力を育成する。避難訓練、安全指導を通して防災意識を高め、自身の安全を守る力や周囲に協力を得る力を高める。定期的にアンケートや教育相談等を実施し、いじめを見逃さない体制を整えるとともに、自身の考えを発信したり、他者に相談したりする力を高める。

（3）進路指導の重点

○学校生活支援シートを活用し、保護者との連携を図りながら進路指導を実施する。自己実現を図るための進路選択に向け、指導する側の教職員の専門性の向上を図るとともに、作業学習との連動を図ることで、生徒本人が希望する進路への段階的な指導を実践する。

第2表の2（中）

学校名 清瀬市立清瀬第二中学校（知的障害学級）

3 特色ある教育活動・その他の配慮事項等

- 前籍校からの引継ぎ、就学相談、保護者面談等の情報から、生徒の障害、健康の状態を総合的・多面的に把握した上で学校生活支援シート及び個別指導計画を作成し、自立のための活動の目標・内容の明確化を図る。
- 教育支援センターやスクールカウンセラー等の活用により、生徒の悩みや困り感へ適切に対応する。
- 学びに向かう力や人間性の涵養、そして主体的・対話的で深い学びを推進するために欠かせない人間関係力の向上を目指し、「笑顔とあいさつ、そしてありがとう 2025」をスローガンに「和心」の講演会や生徒会活動等の特別活動、道徳科を要とした指導を行う。
- 持続可能な社会構築の主体者となる力の育成を目指して、「清瀬を語れる生徒になる」をスローガンに、郷土に関する学習活動や各教科で意識的に郷土に関することがらに触れるなど「清瀬 ESSENCE」をスローガンにして取り組む。
- 校内外の多様な人々との交流活動やチームによる協働的な学習、外部講師による教育活動などを通して、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育成する。
- 生きて駆動する知識・技能の獲得や、情報活用能力の育成に資するように I C Tを活用した授業実践を行う。